

平成30年度 自己評価の結果について

(公表シート 様式 4)

学校法人旭川カトリック学園 旭川みその幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、1.神に作られて愛されている人間として、心身の調和的発達を図りながら、日常生活の基本的習慣を身につけ、2.集団生活の諸経験の中で、神と人とを愛する心、信頼する心を養い、それを自発的に行動で表せるように導き、3.身辺の自然の事象が神のみわざであることを知り、その恵みに感謝し、全てのを大切にすることを育て、4.人々との関わりや祈りによる神との語らいの中で、自分の意志を表示することば『聞く・話す・考える』力を養い、5.一人ひとりが、神さまから与えられた力を十分に発揮し、楽しんで表現活動に参加できるように導き、6.神の恵みに導かれながら、自発的に善を行う強い意志が芽生えるように導く幼児教育を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園の教育課程の内容を確認し、職員会議・研修などを通して教職員の共通理解を図り、教育の質を高める。自己点検・評価を実施することによって教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善、施設の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。また保護者とのコミュニケーションを深めニーズを確認することで、地域に根ざした魅力のある幼稚園を目指していく。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	カトリックの教えを基礎とした園の教育理念や目標の共通理解を深める研修、話し合いをしているが、今後も園内研修などを計画してさらに話し合う機会を多くしていく必要がある。
2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	安全管理の面では施設・環境・指導(年3回の避難訓練実施)に充分留意を図ることができた。教職員全員の共通理解のもと園児一人ひとりを大切に見守り、情報や意見の交換を十分しながら保育を行った。 預かり保育・未就園児の親子教室の実施などの子育て支援を行った。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	保育者としての意識・自覚・責任を常に持つように心がけ、園児一人ひとりの成長に喜びを感じ使命感を持って保育に携わった。研修参加や実践を行う中で資質の向上を目指す努力を行ったが、幼稚園教諭として必要な多面的なスキルを持った教員を目指すためには、さらに自己研鑽をしていく必要がある。
4 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。	個人懇談やクラス懇談、通信文、また必要な時は個々に連絡を取るなど、子どもの様子をできるだけ保護者に伝えるよう努めた。また、保護者とのコミュニケーションを大切にし、保護者からの相談や要望については、園長はじめ教職員全体で相談・対応を図るよう心掛けたが、相手の立場に立った目線での対応が不十分なときがあり、これからさらに真摯な対応を図る努力が必要である。
5 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。	園外保育、勤労感謝訪問などを通して、地域の自然や社会との関わりを深めた。作品展では地域の方にも園を解放し参加して頂いている。小学校との連携は十分図ることができなかった。 園開放事業「ひだまり」に地域の方々にご参加頂いた。

<p>6 研修と研究 研修・研究を積極的にを行い、専門性を高める努力をする。</p>	<p>保育の専門性を深めるため研修会には積極的に参加するように努めたが、記録の取り方やそれに基づいた評価や考察、保護者への対応、幼保小連携について等の多岐にわたる研修はなかなか出来ず、今後園内研修の充実とあわせ計画的に取り組む必要がある。</p>
<p>7 情報公開 保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<p>園だより、お部屋便り、ホームページなどを通して、園の教育方針や活動の様子などを積極的に公開するよう努めた。ホームページについては保護者以外の方にも園の情報を伝える有効な手段なので、さらに充実と工夫を図って行きたい。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

園の特色として、少人数ならではの全体活動や異年齢活動の取り組み、季節や自然・生活・社会などとの関わりを実際に見て触って聞く体験などがあり、幼児の実態を踏まえた指導計画のもと、教職員が共通理解、自己評価をしながら取り組む事ができた。保護者とのコミュニケーションを深めニーズを確認する努力をしてきたが、すべてに答えることや全員に同じように関わることは難しく、広い視野やゆったりとした関わり方などの工夫や見直しが必要である。これからも自己評価により見えてきた園としての課題・個人の課題にさらに取り組んでいきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
安全管理	安全管理については充分意識して取り組んだが、施設面での対応と教職員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルの充実を図りたい。また災害時の対応については、避難訓練後などに反省の機会を持ち、そこで出てきた問題点などを見直し、常に園児の安全確保を図ることができるようにしていきたい。
指導計画の編成	園を取り巻く環境や子どもの実態に即した指導計画の編成に取り組み、その中に園の特色・独自性がはっきり現れるようにして行きたい。また、キリスト教の精神と理念に基づいている幼稚園として、宗教教育の指導計画の充実を図りたい。
園に対する保護者の満足度の把握	本学園の建学の精神を中心とし、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、改善向上に努めていきたい。

6. 学校関係者の評価(保護者の皆様より:・とても良い・良い・あまり良くない・良くない、の4段階評価)

- 1.保育の計画性;・とても良い18・良い14 2.保育のあり方・幼児への対応;とても良い20・良い11・あまり良くない1
3.保育者としての資質と能力;・とても良い20・良い11・あまり良くない1 4.保護者への対応;・とても良い21・良い11
5.地域の自然や社会とのかかわり;・とても良い16・良い12・わからない4
6.研究と研修;とても良い12・良い10・わからない10

総体的には、「とても良い」と「良い」との評価を多数いただいたが、「5地域の自然や社会との関わり」や「6研究と研修」については、「わからない」という評価が比較的多かった。これからは保護者の皆様にも理解をいただけるような伝え方の工夫、さらにいろいろな面での見直しの必要を感じた。また、お遊戯会、音楽パレード、異年齢交流、特別支援の底上げ、手や指先を使う遊びなどのご要望や言葉使いやマナー、園長のこどもたちとの関わり方等についてのご意見もあった。皆様からの貴重な声をふまえて、来年度も検討・見直しなどをして魅力的な幼稚園作りを目指して取り組んでいきたい。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。